

令和5年度 第1回 佐倉市立美術館運営協議会

議事録

日 時：令和5年9月7日（木） 14：00～16：00

場 所：佐倉市立美術館 4階ホール

出席者：以下のとおり

(委 員 9名)

安達委員、葛西委員、齊藤委員、田中委員、豊田委員、中松委員、長澤委員、樋田委員、安本委員

(職 員 6名)

柴田館長、本橋副主幹（学芸員）、木邨主査（学芸員）、大槻主査、西川主任主事（学芸員）、永山主査（学芸員）

会議次第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 報告事項
 - (1) 令和5年度人事異動について (公開)
 - (2) 令和4年度事業報告について (公開)
 - (3) 令和5年度事業計画等について (公開)
 - (4) 令和6年度事業計画等について (公開)
 - (5) その他 (公開)
4. 閉 会

【1. 開会】

【2. あいさつ】

- <館長よりあいさつ>
- <委員紹介（自己紹介）>
- <会長・副会長の選出>

【3. 報告事項】

- (1) 令和5年度人事異動について
<事務局より説明、職員紹介（自己紹介）>

- (2) 令和4年度事業報告について（資料4～5頁）
<事務局より説明>

（会長）

今の報告について何かご質問等ありましたら、どうぞご発言ください。なければ、私から、展覧会の歳出と歳入が書いてありますね。市民の方がみたら、すごい大赤字だと思われてしまう。書き方によって随分違ってくると思います。どういう観点でこうなるのかを少し説明した方がいいように思いますが。

（事務局）

資料の9ページに補足資料として、各展覧会の歳出歳入金額の詳細が出ています。

（会長）

そうでしょうか、例えば図録も全部売れないで残っているとすれば、財産として計上することはできないでしょうか。

（委員）

こうした実態をストレートに出すのは、珍しいと思います。アンケートなどを資料として、こんなに好評だったという提示の仕方もあります。

（事務局）

決算や主要施策の成果など公表されている数字なので、問題ないと思います。主要施策の成果では、アンケートによる満足度が80%ぐらいと出ています。

（会長）

監視員さんは年間通しての雇用だから、個別に給料を歳出に入れなくてもいいとは考えられないですか。

（事務局）

確かに外部へ支払った開催委託や運搬業務、保険料といったものだけを抽出すれば、歳入と歳出の差は少なくなります。なるべく少なく見せる研究はできるかもし

れませんが、安西水丸展は44日間で入場者数7,000人を超えている。美術館というのは、それほどコストパフォーマンスが悪い施設ではないともいえます。

(会長)

その通りですが、そう考えない人もいます。例えば収入ゼロの展覧会も全部一緒にすれば、無料の期間が長いという説明もできます。また考えてみてください。

(3) 令和5年度事業計画等について(資料6~7頁)

<事務局より説明>

(委員)

宮西展を子どものいる方にお薦めしたのですが、えっ?無料なんですか?というんです。そういえば以前、高校生を無料にしたけれど、3、4名しか来なかったというお話もありました。学校でチラシが配られた後どうなるか、先生にもよるし、持って帰る子どもにもよります。先ほどの予算のお話でも、無料の来場者数が多ければ、収入は少なくとも皆さんの関心はあるといえます。学校に何枚ぐらい配って、何人ぐらい来たのでしょうか。

(事務局)

今、手元にはないのですが、大体何%というのは出しています。以前は別に優待チケットを作っていましたが、印刷費がなくなり、チラシに書くようにしました。なので、ただチラシが配られているだけだと思われているのかもしれませんが。

(事務局)

学校を経由すると、お子さんが親御さんに見せないという状況も出てきてしまう。そこで佐倉市のLINEで直接親に情報を流しています。子育て、教育というカテゴリーを選択している方々に、こういう展示が始まっています、小中学生と親御さんは無料ですと、コストのかからない宣伝方法で告知をしています。

(委員)

それは初めて知りました。LINEが浸透してくればいいですね。

(事務局)

ちょうど昨日、市内の小学校から60人が団体鑑賞に来て対応したのですが、そういう場があると、無料だからまたおうちの人と来てね、と言えるんですが。この3年ほど、コロナで学校の団体訪問が減り、そういう機会が限られていました。

(会長)

無料であることが、うまく伝わっていないということですが、無料だから来るというのもどうでしょう。来たら何かある、学芸員の話が面白いからまた聞きに行きたいとか。積極的に引っ張ってくるような、アトラクションがあるとよいのでしょうか。無料だから入るという時代でもない。他の美術館ではどうでしょう。

(委員)

夏休み中は子どもたちも来ますが、子どもだけでは来られない場所で、何かのついでに寄る場所でもないので、親を動かさないと、とは最近思い始めています。

(事務局)

宮西展などは、親のほうに興味があって来ている。親が見ていて、子どもは走り回っているようなところもありました。

(会長)

もう少し戦略的にやる必要がある気もします。

(委員)

子どもだけで来るのは学校としてもあまり好ましくありません。むしろ高校生、大学生を呼び込んで。今回のような企画はよいのでは。

(会長)

さっき見せてもらいましたが、結構大人が入っていましたね。1ヶ月経ったところですが、どうですか？

(事務局)

今、6,041人の入場者で、当館としてはなかなか多い数字です。DIC川村記念美術館さんが、確か昨年からは高校生以下を無料にしたら、やはり子どもたちがかなり来るということでした。

(会長)

料金設定があって無料にするのか、最初から高校生以下無料にするのかもありますね。どちらが観覧者にとってより魅力的なんでしょう。検討してみてください。

(委員)

佐倉美術協会が美術館を利用したり、会員も個展で使っています。近郊で美術館がある市町村は少ない。天井の低い公民館より、やはり本格的な美術館で発表できるのは非常にありがたいです。貸館は去年35件という数字が出ていました。収入として大きな数字ではないかもしれませんが、佐倉には24の絵画サークルがあって、自分たちの趣味の発表の場として利用できるという評価は高いと思います。

(事務局)

ありがとうございます。手元に数字がありませんが、利用率は3分の2くらいでしょうか。主催展で使わないときは、すべて貸館にしていますが、冬や夏の使いにくい時期は空いてしまうこともあります。佐倉市と協定を結んだ女子美術大学と企画をしたり、活用を試みてはいます。

(委員)

都市の魅力というのは、医療などもありますが、文化芸術も一つの要素です。佐倉には美術館があり、文化都市としての要素がある。市民の小さな発表が全部その中に含まれる。そういうことを評価して、アピールしていただきたいと思います。

(事務局)

すいません、数字が来ました。4年度の市民ギャラリー使用料は1,125,545円でした。

(委員)

東京の国立新美術館は貸会場でもものすごく稼いでいる。収入源と考えては。ここは安いと思います。

(会長)

あとは、和田的展の質問もここでいいですか。いかがですか。

(委員)

和田さんは、若い陶芸家の中でも抜きん出てご活躍されているとは思いますが。もともと伝統工芸系の方ですが、それだけにとどまらず、彫って作品を作られたり、栃木とも連携の展覧会だとお聞きしました。ただ中には、若いうちに美術館で展覧会をやると、そのあとが大変だねという方もいらっしゃいました。

(会長)

有料の展覧会ですね。

(事務局)

はい。一般が600円、大学・高校生が400円です。

(会長)

安いですね。これを企画された担当者として趣旨を教えてください。

(事務局)

佐倉は陶芸の産地ではないですが、上瀧勝治さんなどのご尽力により、陶芸が盛んです。産地のような決まりごとがない自由な制作ができるのが、佐倉の魅力であり、和田さんの強みではないかと考えています。こんなふうに全国区の作家がいることを、特に若い人たちに向けて発信したい。それでまだちょっと若いうちに取り上げたところがあります。

(事務局)

和田さんが陶芸を始めたきっかけが、草ぶえの丘という、佐倉市の小学生なら必ず全員が行くような施設なんです。そこに陶芸教室があって初めて陶芸に触れたと。これはもうドリームストーリーです。その辺を子どもたちにうまく伝えて、陶芸家に憧れる子どもを1人でも増やすというのが、今回のねらいです。

(会長)

長嶋に続いてではないですが、普通の人に伝わるような、ぜひそういう講演会をされたらいいと思います。

(4) 令和6年度事業計画等について(資料8頁)

<事務局より説明>

(会長)

ただいまの6年度計画についてご質問をどうぞ。では、エドワード・ゴッリーってどういう人なんですか。

(事務局)

アメリカの作家で、子ども向けの絵本ではなく、どちらかというと大人向け、ターゲット層は20代から50代の女性です。2000年に亡くなって、その後本格的に日本に紹介されるようになりました。子どもが死んでいくとか、結構悲惨で陰湿な内容ですが、人気があって、佐倉の図書館司書と相談して決めた次第です。

(会長)

図書館と協働連携企画ですか。今年度もありましたよね。

(事務局)

向かい側に新図書館ができた時点で、文化施設が連携して商店街、地域を盛り上げることが命題となりました。

(会長)

連携して企画すると、予算的な裏付けができるんでしょうか。

(事務局)

残念ながら今のところないです。本来であれば、カットされる予算を取りやすくはなっているかもしれません。

(会長)

ほかにいかがでしょう。

(委員)

空間的、地域的には、千葉県という方針があると思いますが、時間的には、北総4都市など歴史的な要素も面白い。佐倉市は郷土資料館がないし、特に高齢者だと浮世絵が見たいとか、千葉市美術館や歴博との住み分けもあります。歴史系、伝統的なものもあっていいかと思います。ここ数年は現在の絵本、版画、工芸というのが定着しているような気がします。

あと図書館だけでなく、美術館同士の連携、すぐ裏に刀剣の塚本美術館がありますね。特に若い女性に刀剣女子とか、刀剣乱舞のゲームもあります。近くけど、普段の来館者層と違うものを扱う美術館さんから少し借りて、江戸時代の城下町佐倉に結び付けてもよいかもしれません。そうすると、武家屋敷との関連も出てくる。刀剣を現在の目で見直してみるとか。予算面もあるかと思いますが、グラフィックイラスト系だけでなく、もう少しジャンル、地理的・空間的、或いは時間的な幅、視野を広げ、自由に考えてもよいかもしれません。

(事務局)

開館時から、概ね近代以降の作品という大枠の方針がありましたが、市の文化課の研究成果をこの場で発表するという側面から、何回か近世にまたがる企画もありました。市の博物館がありませんので、近世ぐらいまで、時代を遡ってもいいのではという議論は出ています。

塚本美術館さんにも若い学芸の方が入られて、SNSで発信したりしていらっしゃるんですが、予算や管理の問題から、土日は開館せず、平日の数日だけです。企画によっては塚本さんの収蔵品をこちらで展示する可能性もあるかもしれません。佐倉

はあまり絵師がいなくて、研究も進んでないので、長い目で見ながらやっていければと思います。

(委員)

今、各地の美術館や博物館が財政的には常に厳しく、苦しんでいる状況にあって、国がいわゆる文化財活用センターのようなものを作りました。そこでは、作品を貸します、複製のレプリカを活用してください、必要であれば、多少お金も出してくれるのではないかと思います。そういうところと連携して、広範囲にアプローチしてみてもよいかと思います。

(会長)

最近、油絵の展覧会をやらなくなりましたね。バラエティがなくなった感じはします。

(委員)

要望ですが、来年は開館30周年という大変楽しみな年です。美術関係、書道関係、毎年の展覧会に、開館30周年という冠をつけてもらったらどうでしょう。ここがそれだけ歴史があるということを皆さんにわかってもらえんと思います。

もう一つ、令和6年度に津田梅子のお札が出ます。佐倉市にとって、やはり素晴らしいことだと思うので、津田仙など佐倉学の展示をやってもらえないかと。子どもたちは学校で佐倉学を勉強していて、クイズなんかもいろいろあるんです。子どもを呼び込むきっかけにもなるかと思っています。

(会長)

社会的な幅を広げていくということですよ。

(事務局)

来年5,000円札の図柄に津田梅子を取り上げられますが、向かいの図書館ですでに佐倉学の展示をかなりやっています。新札発表は5月なので、図書館で使ったものを借りてエントランスホールで展示することはできるかと思っています。

(会長)

まさに連携企画ですね。

(委員)

全般的なことで、これまでの基本方針や館の使命もあると思いますが、今ここにいる職員の方々が、今後の方針をグループワークで定期的に話し合い共有していくことに効果があると思います。その上で社会資産のセクションの組織の中で承認を得て、根気よく予算要求していく。予算要求をしない限り、事業は実施できません。委員の皆さんからそれぞれアドバイスはあっても、本当に変えていくのは館長と学芸とスタッフの方々です。

今のところコレクション展をベースに絵本展と版画展を継続的にされてきている。ただ内容的には佐倉のアーティストの特徴を定期的に紹介する策がない。そこは検討されてもいいのでは。ではどうするかというときに、佐倉藩の歴史は非常に強

い。私も今後について考えるとき、では50年前はどうだったのか、100年前はどうだったのか。そこから向こう50年はどうだろうと考えています。

近代化されていく佐倉藩、その流れの中で出てきたアートを使って、どういう活動が有効か、佐倉の市民に訴えることができるかを議論していったらどうか。自分たちだけでわからなければ、どんどん外に相談に行く。どこの館も今こうした議論をしていますから。これが私の本日ここに参加した総括です。

(委員)

この夏、栃木県の足利市立美術館で非常に変わった展覧会（「顕神の夢 霊性の表現者 超越的なもののおとずれ」）を見たのですが。

(委員)

あの美術館の副館長の方が発想したちょっと変わった展覧会で、魂を抜かれるような霊の世界のとてもインパクトのある展覧会でした。

(委員)

驚きながら見ていくと、関根正二や村山槐多の絵もあったりして、そういう文脈からみると東京国立近代美術館に並んでいるものとは全然違って見える。日本の近代美術を全く違う視点で見るとするのは非常に面白いと思うんです。もう少しアンテナを張っておくといいのでは。

(会長)

美術史に囚われない視点を持つのは難しいですが、今回の和田的さんなんかは、縄文から始まって近代、明治という陶芸史の文脈とは関係なくやっているところもあるから、そういう視点で話しても面白いと思います。

基本方針をそろそろ見直してもいいんじゃないか、まさにその通りだと思います。勇気を持ってよく言ってくださって、ありがとうございました。

(5) その他

(事務局)

7月から、機械式駐車場入口跡を利用して、本を自由に持ってきたり持って帰れる小さな図書館「ガレージライブラリー」をオープンしました。利用者数はカウントしていませんが、本が入れ替わっているの、好意的に利用されているのかなと考えております。

もう一つ、ネーミングライツが決まり、呼び名は佐倉市立美術館のままですが、印刷物等では「佐倉市立美術館！...GC」と企業名が入りました。正面の看板を新しくしましたので、お帰りの際に確認していただければと思います。

(会長)

発言されてなかった方もいらっしゃると思いますが、何か全体を通してでもお感じになったことはありませんか。

(委員)

先ほど SNS のお話がありましたが、他の市町村では全体を所管している部署があつてすぐに流せないところもあるようですが、どうですか。

(事務局)

発信は各課にまかされています。

(委員)

それならよいですね。年齢の高い方でもメール、LINE はかなり使いこなしています。何度か流すと周知されてきます。また小中学校への広報の話もありましたが、保護者へもメールや LINE のほうが効果は高いかもしれません。

また30年経って館の基本方針を見直す時期かというお話もありました。行政的には最初の方針に則って設立されているので、その辺をどうするか。またこれだけの職員で業務をやりながら案を検討していくのは非常に大変だと思います。プロジェクト単位である程度作って、まとめていくといいと思います。

それともう1点。図書館とのいわゆる博図連携、県立博物館でもやっています。佐倉市の行政的な一つの目玉かと思いますが、うまく利用して図書館の資料を美術館で活用していくのも一つの手かなという気はします。

(委員)

中央公民館の夏休み親子で工芸という事業を今年は初めて LINE で告知をしたんです。そうしたら、7組の募集に50何組か応募がありました。美術館もこれからはやはりそういうのを活用する方が、周知や集客に繋がるのかなと期待します。

(事務局)

「Junaida 展」にあわせて、美術館の twitter、X と Instagram のアカウントをとり積極的に活用しようとしています。作家さんご本人が、自分のアカウントで発信すると何千何万の閲覧がある。費用をかけずに、千葉エリアに限らず広く万遍なく、SNS での周知活動も模索していきます。

(会長)

館の SNS をどんどん更新していく、そういうのが大きいかもしれませんね。

(委員)

そもそも書道は、意見を求められる機会が少なく、こうした会議は非常にありがたい。コロナは我々の年齢層に被害が大きく、佐倉の、日本の書道界が危機意識を持っている。美術館運営も、大きな問題を抱えている時期だということで、今日は考えさせられるスタートだったと思います。いろいろ勉強させていただきます。

(会長)

他にありませんか。それでは、ここまでといたします。

【4. 閉会】